

2005年度EMP講座報告書

2006年3月29日

宮崎大学医学部社会医学講座英語分野

教授 玉田吉行
助教授 横山彰三
助教授 Michael Guest
講師 Richard WHITE

- (1) EMP 講座
- (2) 教授会承認
- (3) 教育戦略経費
- (4) 第一回 EMP 講座
- (5) 実施後の評価
- (6) 2006年度からの取り組み

- <資料>
- 1 EMP 講座教授会提案資料
 - 2 EMP 講座実施予定表
 - 3 第一回 EMP 講座詳細
 - 4 実施後評価アンケート
 - 5 参加者感想文 (英文)
 - 6 看護部アンケート

(1) EMP 講座

2005 年度、医学科 4・5 年生に実施した短期英語研修講座の報告書です。

宮崎大学医学部は、2005 年 3 月にタイのプリンス・オブ・ソンクラ大学と学部間学生交換プログラムに関する覚え書きを締結し、4 月に医学科 6 年生 4 名がクリニカル・クラークシップ・プログラム（1 ヶ月間）に参加しました。EMP 講座はその準備のための短期研修講座です。

EMP とは、English for Medical Purposes のそれぞれの頭文字を取って作った略語で、医療のための英語という意味で、元々、目的を明確にして学習効果を高める狙いで考案された ESP (English for Specific Purposes) 教授法由来の言葉です。今回は、海外での臨床実習に参加するための英語運用力を高めるという明確な目標のもとに、医学部の正式なカリキュラムの中に位置づけた「EMP 講座」として、希望者に英語研修を実施しました。

(2) 教授会承認

12 月 14 日の教授会に、英語分野が「4・5 年生の英語研修プログラム—EMP (English for Medical Purposes) 講座」を実施することを提案して、承認されました。

[実施計画・方法] は、英語分野の 4 人が中心となり、17 年度学長裁量の「教育戦略経費」を利用してソンクラ大学とアーバイン校から医学教員を招いて（ソンクラ大学との窓口役は、応用生理学分野の丸山教授、アーバイン校の窓口役は産婦人科学分野池ノ上教授）、英語の短期研修を行なう、でした。

[期待される成果] は、①4・5 年次に明確な目標の下でこのプログラムが実施出来れば、海外での貴重な研修の場で、学生自身がより多くのものを吸収することが期待出来る、②プログラムを正規のカリキュラム内に位置づけて、入学から卒業までの一貫性を持つ制度が定着すれば、下級生の指針や励みにもなり、1・2 年次での英語学習にも大きな成果が期待出来る、③卒業後研修との連携が可能になれば、研修生確保の一助にもなり得る、④プログラムを充実させて実績を積み、学外資金の獲得も可能になる、でした。(教授会提案内容—資料 1)

(3) 教育戦略経費

EMP 講座を念頭に入れ、「将来の職業と直結した英語教育プログラムの構築に取り組む」ことを骨子にした「プロジェクト名 英語が使える医療人の育成プログラム」で、学長裁量による 2005 年度教育戦略経費を申請し、240 万円が交付されました。

(4) 第一回 EMP 講座

2 月 17 日から 3 月 11 日まで（1 期が 2 月 17 日から 23 日まで、2 期が 3 月 7 日から 11 日まで）、5 年生 6 名、4 年生 9 名（途中参加 1 名、辞退 2 名）が参加し、1 期はソンクラ大からの Dr. Teerha Piratvisuth と Dr. Sakon Singha のセッションを中心に、2 期はカリフォルニア大アーバイン校からの Dr. Feizal Waffarn のセッションを中心に EMP 講座を実施しました。詳細は資料 2 「EMP 講座実施予定表」と資料 3 「第一回 EMP 講座詳細」に記載しています。

セッションの様子は録画し、DVD—R12 枚に収めました。今後の資料に活用する予定です。

(5) 実施後の評価

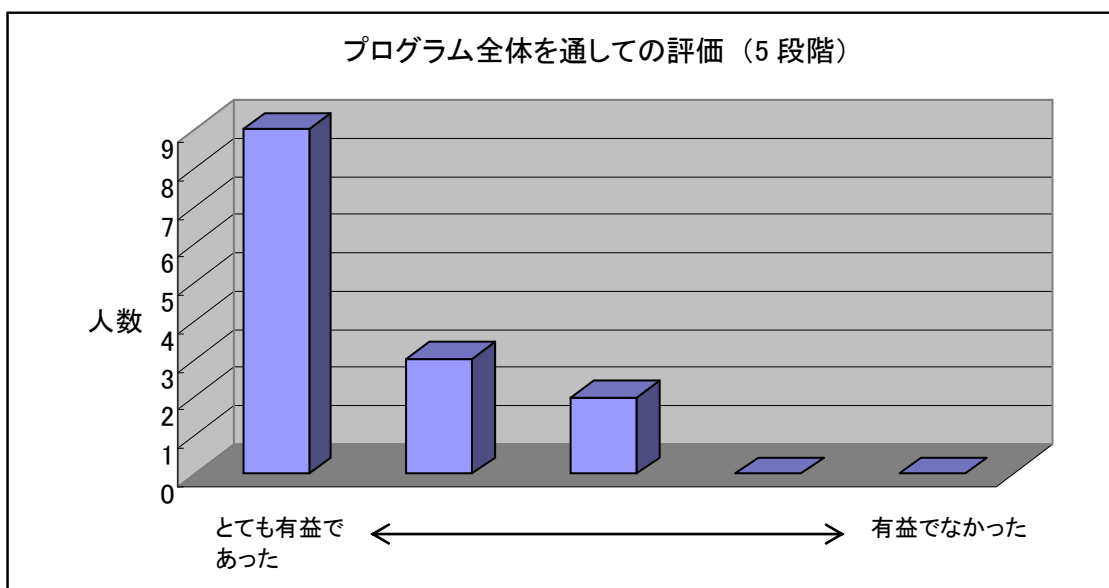
講座修了後、参加者にアンケートを行ない、英文の感想文を提出してもらいました。アンケートの集計結果は資料4「実施後評価アンケート」に、感想文は資料5「参加者感想文(英文)」に掲載しています。

初めての試みだったこともあり、日程的に無理がありましたし、色々と不手際もありましたが、アンケートの集計結果を見ても、参加者には大体満足してもらえたようです。

実施した側としては、当初の「取り敢えず今年は先ずやってみる」という目標が果たせただけでなく、①英語分野、応用生理学分野、産婦人科学分野、総務課など、医学科全体が相互協力してプログラムが実施できた、②目的を持って語学を学ぶことの大切さを改めて実感した、③招聘講師を招いて行なったセッションから今後の講座の内容と展開のやり方についての具体的な手がかりが得られた、④学部間協定を締結したアーバイン校との学生間交流が開始出来る可能性が高まった、などが主な成果としてあげられます。そして、次の(6)で書きますが、この講座を足掛かりにして、「英語が使える医療人の育成」のための医学部挙げてのプログラムが展開し始めたことが何よりの成果だったように思います。(2006年度のカリキュラムに医学科4・5年生のEMP、看護学科3・4年生のENPがすでに組み込まれています。)

同時に、学部全体のプログラムとして展開するためには、アンケートでの参加者の意見にもありましたが、特定の学生や教員に負担がかかりすぎないように工夫も必要でしょうし、全体を見通したプログラムの検討もしなければなりません。

教育戦略経費の決定が遅かったこと、招聘教員との交渉が捗らなかったことなどもあり、参加者募集の掲示を出したのが12月の末になってしまいました。参加者は講座を最優先させて熱心に取り組んで予想以上の成果があったと思います。アンケートで多くの参加者が指摘していましたが、プログラムの具体的な日程や内容のもっと早い段階で公表し、学部全体に周知することが今後の課題です。(2006年度は、学年初めに内容や年間計画が公表できるように準備をしています。)



1. Dr. Teerha/Sakon 担当セッション

- 1) 5段階評価平均 4.15
- 2) あなた自身について

回答者 13名	大変満足	満足	あまり満足していない	満足していない
あなたの目標達成度	2	7	4	0
セッションのインプット量	3	9	0	1
セッションのインプットレベル	2	8	2	1
セッションへの参加度	3	7	3	0
資料類(映像を含む)	1	10	2	0
期間(3日)の長さ	3	6	4	0
使用教室	6	6	1	0
設備類	7	4	2	0

2. Dr. Waffarn 担当セッション

- 1) 5段階評価平均 5.0
- 2) あなた自身について

回答者 13名	大変満足	満足	あまり満足していない	満足していない
あなたの目標達成度	4	8	0	1
セッションのインプット量	8	5	0	0
セッションのインプットレベル	7	6	0	0
セッションへの参加度	7	6	0	0
資料類(映像を含む)	9	3	1	0
期間(3日)の長さ	4	3	6	0
使用教室	7	6	0	0
設備類	7	6	0	0

3. ゲスト・ホワイト担当 follow-up セッション

- 1) 5段階評価平均 4.8
- 2) あなた自身について

回答者 13名	大変満足	満足	あまり満足していない	満足していない
あなたの目標達成度	8	4	0	1
セッションのインプット量	6	7	0	0
セッションのインプットレベル	6	7	0	0
セッションへの参加度	10	1	1	1
資料類(映像を含む)	8	5	0	0

期間の長さ	4	4	4	1
使用教室	7	6	0	0
設備類	7	6	0	0

4. 全体的な観点から

- 1) 5段階評価平均 4.5
- 2) 実施期間

長い	4
ちょうど良い	6
短い	4

- 3) 希望実施回数/年 平均 2.4回

(6) 2006年度からの取り組み

今回の EMP 講座は、ソククラ大学でのクリニカル・クラークシップの準備のために組んだのですが、その過程で、今回の講座を足掛かりに病院も含めた医学部全体の取り組みに発展させようという流れになりました。その取り組みの総称に EMP を使うことになりました。EMP は、医学科の EMP、看護学科・看護部の ENP (English for Nursing Purposes) を含めた形での医学部全体の取り組みの総称です。

医学科では、4月から4・5年生のカリキュラムの中に選択科目として EMP が組み込まれます。プログラムの充実に向けて、4月に玉田と横山助教授がソククラ大学を訪問します。(資料6—横山彰三「ソククラ大視察」) 大学院での EMP 講座 (アカデミックライティング・リーディング、プレゼンテーションスキルの向上など) の開設も視野に入れていきます。

看護学科では、4月から3・4年生のカリキュラムに選択科目として ENP が組み込まれます。ENP は English for Nursing Purposes の略語で、医療のための英語 (EMP) を看護・看護学のための英語と更に明確化したものです。医学科同様に大学間或いは学部間協定を結んでの学生交流に発展出来ればと考えています。大学院 ENP 講座 (アカデミックライティング・リーディング、プレゼンテーションスキルの向上など) の開設も企画中です。

大学附属病院の看護部でも4月から ENP 講座を開設します。アンケート調査のニーズ分析では、予想以上に英語を話す患者への対応が緊急課題であることがわかりましたので、取り敢えず始めてみて、今後の展開を考えてゆきたいと思えます。(資料7—看護部アンケート)

ENP 講座への参加希望者が52名あり、講座開始に向けて調整中です。

病院の医師に対しては、卒後研修のプログラムの中に外国での研修を織り込んだ形での取り組みを模索中です。ソククラ大での卒後研修も可能とのことでしたので、実現に向けて担当の池ノ上教授が5月にソククラ大学に交渉に行かれる予定です。その準備のための講座も必要となります。

また、事務職員に向けては、実践講座 (英文電子メールとビジネス文書ライティング) の開設が実現すればと考えています。

資料1 「EMP 講座」 教授会提案内容

EMP (English for Medical Purposes) 講座について

4・5年生対象の英語が使える医療人の育成プログラム

2005年11月14日 英語科提案 (12月14日教授会承認)

正規のカリキュラムとして、4・5年生の英語研修プログラム、「EMP (English for Medical Purposes) 講座」(仮題)を提案します。

今年度から始まった学部間提携校プリンス・オブ・ソンクラ大学(タイ)での単位認定を伴うクリニカル・クラークシップに向けて、正規のカリキュラム内の選択科目として、4年生・5年生に短期集中型の英語研修が行なえるプログラムを考案しました。今年度の春休みから実施したいと考えています。ご承認をお願いします。

8月10日の「地域連携・国際交流委員会」(委員長:池ノ上教授)で、カリフォルニア大学アーバイン校との学部間学術交流締結に向けて、小児科医のFeizal Waffarnさんと話し合いを持ちました。会議のあと、Waffarnさんが英語科の部屋に来られて、「日本の学生はよく出来るのに、英語に自信のない学生が多いので、言葉に自信を持つ学生を送って下さい、一緒にやりませんか」とおっしゃいました。

現在は、1、2年次しか英語の授業は行なわれておりませんので、短期で外国に行く上級生からの要請には個別に対応してきましたが、将来の職業と直結した「使える英語」に向けての取り組みは必要だと思います。

現在の大学英語教育が抱えている大きな問題の一つに、学習者にとって英語を学ぶ必要性=動機付けが明確でない点が挙げられます。今回のプログラムでは、EMP (English for Medical Purposes) 教授法を軸に据えて、将来の職業と直結した英語教育プログラムの構築に取り組みたいと考えています。

(現在、アーバイン校でもクリニカル・クラークシップが実施出来るように交渉中です。)

[実施計画・方法]

英語で行なわれるクリニカル・クラークシップやキャンパスライフに必要な言語事情を考慮してプログラムを作成し、英語科の教員4人玉田吉行、横山彰三、マイケル・ゲスト、リチャード・ホワイトが中心になって講座を担当します。ソンクラ大学との窓口役丸山教授とアーバイン校の窓口役池ノ上教授に調整役をお願いして基礎医学、臨床医学の教員にも参加をお願いする予定です。

更に、17年度学長裁量の「教育戦略経費」(240万円)の交付が決まっていますので、ソンクラ大学、アーバイン校から医学教員を招いて、短期研修に加わってもらう計画です。

今年度は、2月12日(月)～3月10日(金)(入試期間を除く)の期間に、15回(90分×15)での短期集中講座を考えています。

将来的には、1回目が4年次の夏休み前の2～3週間、2回目が5年次開始直前の2週間、3回目が5年次の夏休み前の2～3週間、4回目がクリニカル・クラークシップ開始直前の4週間(2月中旬から3月中旬)、計4回を実施出来ればと考えています。

今年度クリニカル・クラークシップに参加した6年生の4人からアンケート調査や聴き取り調査を行ないました。12月には、横山彰三助教授がソククラ大学を訪問して担当者から話を聞くなど、現在、プログラム作成に向けて準備を進めています。

年内に、下級生全員に案内して、このプログラムの説明会を開催する予定で、その時には、クリニカル・クラークシップに参加した6年生も参加・発表してくれる予定です。

[期待される成果]

医療面での動機付けが高くなる4・5年次で明確な目標の下でこのプログラムが実施出来れば、アーバイン校の受け入れ担当者の「日本の学生はよく出来るのに、英語に自信のない学生が多いので、言葉に自信を持つ学生を送って下さい」という要望に少しは応じられると思いますし、海外での貴重な研修の場で、学生自身がより多くのものを吸収することが期待出来ると思います。さらに、プログラムを正規のカリキュラム内に位置づけて、入学から卒業までの一貫性を持つ制度が定着すれば、下級生の指針や励みにもなり、1・2年次での英語学習にも大きな成果が期待出来ると思います。

更に、卒業後の研修期間にソククラ大学、アーバイン校での研修が受けられる体制を取り、卒後研修の目玉の一つに出来れば、研修生確保の一助になるのではないかと考えます。最終的には、1、2年生の英語学習の動機付けの一助にし、4～5年生には実際に短期集中研修を行ない、卒後研修生には研修のプログラムの一環に組み込む、と入学時から卒業後までの一貫性を持つ事が目標です。

実際にプログラムが動き始め、内容を充実させて実績が伴えば、学内の予算措置だけでなく、学外資金の獲得も可能ではないかと考えています。

資料2 「EMP 講座実施予定表」

EMP 講座 予 定 表

年月日	予 定	内容
06.2.18 (金)	1 回目 (10:00~12:00)	Preview
06.2.20 (月)	2・3 回目 (9:00~12:00) Dr. Teerha Piratvisuth, Dr. Sakon Singha	Case Study 1/2
06.2.21 (火)	4・5 回目 (9:00~12:00) Dr. Teerha Piratvisuth, Dr. Sakon Singha	Case Study 3/4
06.2.22 (水)	6 回目 (9:00~10:30) Dr. Sakon Singha 7 回目 (10:30~12:00)	Case Study 5 Review
06.2.23 (木)	8 回目 (10:00~12:00)	Review
06.3.6 (月)	9 回目 (10:00~12:00)	Preview
06.3.7 (火)	10・11 回目 (9:00~12:00) Dr. Feizal Waffarn	Case Study 5/6
06.3.7 (水)	12・13 回目 (9:00~12:00) Dr. Feizal Waffarn	Case Study 7/8
06.3.7 (木)	14・15 回目 (9:00~12:00) Dr. Feizal Waffarn	Case Study 9/10
06.3.7 (金)	16 回目 (10:00~12:00)	Review

講師：

Dr. Teerha Piratvisuth, Dr. Sakon Singha (Prince of Songkla University)

Dr. Feizal Waffarn (University of California, Irvine)

宮崎大学社会医学講座英語分野：玉田吉行、横山彰三、Michael GUEST, Richard WHITE

臨床系基礎系 MDs

参加者：5年生6名、4年生9名

参加者 5年生6名 齋藤清貴、須江宣俊、杉田泰雅、趙麻未、塚原朋子、牧洋平
4年生9名 馬越裕子、川口剛 (途中辞退)、島元万吏、竹田奈穂子、竹渕史子、田中千尋 (途中参加)、戸田翠、永井琢哉 (途中辞退)、萩田美和、三輪真史、山下麻里絵、

EMP program in U. of Miyazaki Tentative schedule

Date	Schedule	Time
06.2.19 (Sun)	-Arrive at Miyazaki A/P -Pick up, go to Palm Beach Hotel and lunch -Talk about details on EMP	12:20 13:00 ~15:00
06.2.20 (Mon)	-Pick up at Hotel (Dr.Maruyama) -EMP(1) Dr. Teerha Piratvisuth, Dr. Sakon Singha -Luncheon meeting with President Sumiyoshi -Bed-side training -Welcome Party with students, doctors and instructors (1 st floor restaurant)	8:30 9:00~11:45 12:00~13:00 14:00~16:00 18:00~20:00
06.2.21 (Tue)	-Pick up at Hotel (Dr.Maruyama) -EMP(2) Dr. Teerha Piratvisuth Dr. Sakon Singha -Lunch with Dr. Maruyama & English instructors at U of M -Welcome Party with doctors and instructors (city center)	8:30 9:00~12:00 12:00~13:00 18:30~20:30
06.2.22 (Wed)	-Pick up Dr. Sakon Singha at Hotel (Dr.Maruyama) -To the Miyazaki A/P (by taxi): Dr.Teerha -EMP(3) Dr. Sakon Singha -Lunch with 5 th year students	8:30 8:45 9:00~10:30 11:30~
06.2.23 (Thu)	-To the Miyazaki A/P (by taxi) -Leave for Fukuoka	6:45 7:45

Lecturers(facilitators) : Dr. Teerha Piratvisuth, Dr. Sakon Singha
(Prince of Songkla University)

U of M English education section: TAMADA Yoshiyuki, YOKOYAMA Shozo, GUEST
Michael, WHITE Richard

Medical doctors: Dr. Maruyama, Dr. Ikenoue

Supporting administrative staff: Ms. Hirata, Ms. Nagatomo

*Tamada/Yokoyama (office) 85-3595

*YOKOYAMA (mobile) 08052706688

EMP program 2006 in University of Miyazaki

Schedule for Dr. Waffarn

Date	Schedule	Time
06.3.7 (Tue)	-Arrive at Miyazaki A/P & pick up (Prof. Tamada & Yokoyama) -Signing ceremony with Dean -Meeting with English Teaching staff and Dr. Ikenoue -Leave for hotel (Dr. Furukawa) <Lodging: Miyazaki Kanko Hotel>	14:35 15:00~15:30 15:30~ :
06.3.8 (Wed)	-Pick up at Hotel (Dr. Furukawa) -EMP A-1 (4 th grade) -EMP A-2 (5 th grade) -Lunch with students & staff -New born baby ward round (Dr. Ikenoue) -Meet with Univ. President (Dr. Sumiyoshi) -Leave for hotel (Dr. Furukawa) -Welcome Party with administrative and teaching staff at Miyazaki Kanko Hotel <Lodging: Miyazaki Kanko Hotel>	8:30 9:00~10:30 10:30~12:00 12:00~13:00 13:30~ 16:00~17:00 : 19:00~21:00
06.3.9 (Thu)	-Pick up at Hotel (Dr. Furukawa) -EMP B-1 (4 th grade) -EMP B-2 (5 th grade) -Lunch with Prof. Tamada & Yokoyama -Interview (Yokoyama) -Leave for hotel (Dr. Furukawa) <Lodging: Miyazaki Kanko Hotel>	8:30 9:00~10:30 10:30~12:00 12:00~13:00 13:30~14:30 :
06.3.10 (Fri)	-Pick up at Hotel (Dr. Furukawa) -EMP C-1 (4 th grade) -EMP C-2 (5 th grade) -Lunch with obstetrics & gynecology staff -Move to Miyakonojo (Dr. Ikenoue) -Lecture & meeting at Noda hospital <Lodging: in Miyakonojo>	8:30 9:00~10:30 10:30~12:00 12:00~13:30
06.3.11 (Sat)	-Move to Kagoshima -Lecture & meeting at Kagoshima municipal hospital <Lodging: in Kagoshima>	
06.3.12 (Sun)	-Back to Miyazaki <Lodging: in Miyazaki>	
06.3.13 (Mon)	-Leave hotel by taxi (use taxi ticket) -Leave for Kansai Int'l A/P from Miyazaki A/P	11:45 12:55

資料3「第一回 EMP 講座詳細」

2006年02月17日 EMP 講座始まる

17日からEMP講座が始まりました。5年生5人が参加、月曜日からのケース・スタディの前に、自己紹介なども含めた会話の練習と医学用語の発音の練習などをしました。横山さんが撮影の練習をして、録画した映像をハイビジョン画面で確認しました。ホワイトさんも会話に加わり、質問や解説などをしました。

2006年02月19日 Dr Teerha、Dr. Sakon、宮崎に到着。

Dr Teerha、Dr. Sakonが宮崎空港に到着されました。横山助教授、丸山教授と玉田が出迎え、宿泊先のパームビーチホテルに案内しました。昼食をしながら、打ち合わせを行いました。



2006年02月20日 EMP 講座2日目

講師2名によるケーススタディに4・5年生とタイの留学生3名が参加しました。以下、受講者からの報告です。

「本日、ティラー先生によるケーススタディが行なわれました。席の配置は、議論のしやすさを考慮して半円形にし、前列に5年生とタイからの留学生とサコン先生が座り、後列に4年生が座りました。

症例は、数週間前の交通事故後から黄疸を呈した44歳男性でした。尋ねるべき情報は？ ラボデータの解釈は？ 鑑別診断は？ まず行なうべき検査は？ といった形で話が進み、最後に黄疸の鑑別のフローチャートが提示されました。答えは、交通事故後に投与された抗生剤による薬剤性肝炎でした。

5年生には4月にタイでクリニカル・クラークシップを行なう学生も含まれており、この機会を最大限に利用するべく、ふだんの講義のときよりも積極的に議論していました。あとから、タイの学生から聞いたのですが、タイではスモールグループでのケーススタディでも皆あまり発言しないらしく、日本の学生は積極的だと言っていました。しかしこの1週間タイの学生と



つきあった感想では、日本の学生よりも何倍も勉強しているようで、我々は見習わなければならないと思います。

ティラー先生の議論は非常に論理的であり、内容だけでなく、思考の仕方の勉強にもなりました。

午後からは第2内科でベッドサイドラーニングがあり、タイの先生方、2内科の先生方、タイの学生3人、5年生3人が参加しました。議論も白熱し、我々学生も勉強になりました。(M5 杉田)」

* 昼食会

Dr Teerha、Dr. Sakonを迎えての昼食会が本学でありました。住吉学長、名和副学長、河南学部長などを囲んで和やかに歓談しながらの食事となりました。

* 歓迎パーティ

ソクラからの 5 人を迎えて、医学部挙げての歓迎パーティが催され、約 50 名の参加がありました。

初めての試みでもありますので、みんなが試行錯誤しながらやっていますが、Dr. Teerha の挨拶の中にあつたように次の世代のためになれば幸いです。名和副学長の挨拶にもありましたが、農学部とも協定が結ばれるようですので、ますます実質的な行き来が実現しそうです。宮崎大学とソクラ大学に乾杯！



2006 年 02 月 21 日 EMP 講座 3 日目

5 年生とタイの留学生は Dr Teerha のケーススタディに、4 年生は Dr. Sakon の講義に参加しました。以下、学生の報告です。

「本日、5 年生 6 名はタイからの留学生とともに、ティラー先生の下、ケーススタディを行いました。テーマは肝硬変→門脈圧亢進症→消化管出血であり、本学第 2 内科から紹介してもらった症例を 5 年生がパワーポイントを用いて提示しました。それぞれの症状について鑑別疾患は何か議論し、またそれぞれについて治療法を考えました。みんなが意見を言い終わると、ティラー先生がエビデンスに基づいて説明してくれました。先生はみんなが、ああでもない、こうでもないと考えることに意味があるのだと言っており、私たちもそれに同感しました。どんな質問をしてもエビデンスに基づいて、しかも数字をあげて（すべて暗記している）説明するので、臨床医たるもの、かくあらねばならない、と再認識しました。(M5 杉田)」

「EMP 講座 2 日目 (5 年生は 3 日目)。今日は二手に分かれ、4 年生は Dr. Sakon のレクチャーを受けました。内容は medical professionalism について。

Professional のひとつである医師として大切なこと、患者との関係、倫理についてディスカッションしました。日本では普段あまり考える事のない宗教の話や、海外のケースを使ったケーススタディーもあり、日頃の自分よりも格段に広い見方が出来たと思います。また昨日のアドバンストな内容のレクチャーの後だったので、かえって基本の大切さがわかったような気がします。



今日のレクチャーでは人数が半分になったこともあり、一人一人が発言する機会や考える時間が長く取れました。普段の授業との最大の違いはそこです（もちろん、「英語」という部分を除けばですけど）。言葉が違う分、身振り手振りも交えるため頭も体もフル稼働。でも、相手に伝えると言うのはこういうものなのかも知れませんね。授業が終わって今、この疲れが心地よいです。明日も楽しみです。(M4 山下)」

2006 年 02 月 22 日 EMP 講座 4 日目

4・5 年生と留学生が、Dr. Sakon の講義を受けました。

「EMP 講座 3 日目 (5 年生は 4 日目)。今日は 4, 5 年合同で Dr. Sakon のレクチャーを受けました。



内容は昨日 4 年がうけたレクチャーとほとんど同じだったので復習にもなりました。今日でタイの先生のレクチャーは最後でしたが、この 3 日間を通して今後何をすべきかが少し見えたような気がします。

まず、なんといっても私たちに足りないのはボキャブラリー。読めるだけでなく、医学用語の正確な発音を学ぶことで理解が格段にしやすくなると思います。単語がわかれば、残りはなんとか類推出来ます。もう一つ、医学の知識をきちんと整理することが大切だと思いました。

やはり、バックグラウンドの知識があるのとないのでは全く違います。この二つはこれから一年かけて勉強していきたいです。

明日はレビューの日。3 日前から少しは成長しているといいんですが。(M4 山下)」

2006 年 02 月 23 日 EMP 講座 5 日目

4 年生はホワイトさんが、5 年生はゲストさんが担当してそれぞれ、レビューと会話をやりました。4 年生は医学用語の発音練習も少しだけ。

* ケーススタディの様子は録画し、DVD-R6 枚に取めています。今後、資料として利用する予定です。

2006 年 3 月 7 日 EMP 講座第二部開始、講師 Dr. Feizal Waffarn が宮崎に到着。

7 日に EMP 講座を再開しました。5 年生はゲストさんが担当、4 年生はホワイトさんが担当して、8 日の新生児室でのセッションの Preview を行ないました。

午後には、Dr. Waffarn が宮崎空港に到着されました。横山助教授と玉田が出迎え、学部長室に直行、今回持参された既にサインを終えた学部間の協定書を確認しました。今回の EMP 講座は、学部間提携校としての初めての試みとなります。

そのあと、英語のスタッフ 4 人と明日のセッションの打ち合わせを行ないました。



2006 年 3 月 8 日 EMP 講座第二部 2 日目

Dr. Waffarn による新生児室でのセッションに 4 年生、5 年生が分かれて参加しました。4 年生がやっているときは 5 年生にゲストさんが Preview を、5 年生がやっているときは 4 年生にホワイトさんが Review を行ないました。英語科の 4 人と熊本大と県立看護大の見学者もセッションに加わりました。以下は、学生からの感想です。

「本日、5 年生は 9 時から 10 時 20 分までゲスト先生による preview を行い、その後、NICU (新生児集中治療室) でファイザル先生の新生児診察に参加しました。始まる前はみんな緊張して

いましたが、**preview** をしていたおかげもあって、積極的に発言・質問していました。私はその逆で、始まる前は全く緊張していませんでしたが、はじめに質問をされて、それにうまく答えられず、それが尾を引いていつもより消極的になってしまいました。

ファイザル先生は医学的なことを説明してくれるだけでなく、我々に積極的に発言を促し、英語で話す練習をさせてくれました。

昼食時には、ファイザル先生と医学部の教官とで、今後の交換留学などについて話していました。このプログラムがますます進展することを、学生一同、期待しています。(M5 杉田)

「午前9時から病院内の新生児センターにて Dr. F. Waffarn のレクチャーを受けた。昨日の White さんによる NBS(New Ballard Score)の論文についての勉強会がとても役に立ったと感じた。なぜなら、まずはじめにされた質問が“妊婦を検診する際にどんなことを聞くか?”という昨日も White さんにされた質問と同じだったからである。また、Lanugo (産毛) や creases(しわ)という日常会話ではほとんど出てこないような **medical terms** も比較的楽に理解することができた。後半は実際の新生児を診察しながら NBS 判定を行った。何から何まで初めての体験で戸惑い、驚くこともあったが、文字通り手取り足取りのレクチャーにとっても感激した。
(M4 島元)」



* 昼食会

河南学部長主催の Dr. Waffarn と学生の昼食会が医学部でありました。菅沼副部長、池ノ上教授、鮫島助教授 (産婦人科)、英語科のスタッフ 4 人も加わりました。

* 昼食会のあと、Dr. Waffarn と英語科のスタッフ 4 人とで、今日のセッションのフィードバックと明日の講義の打ち合わせを行ないました。

* 学長・副学長へ表敬訪問

午後、Dr. Waffarn が住吉学長・名和副学長に表敬訪問をされました。河南学部長と玉田が案内しました。協定書の確認のあと、今後の交流の展望についての意見交換を行ないました。

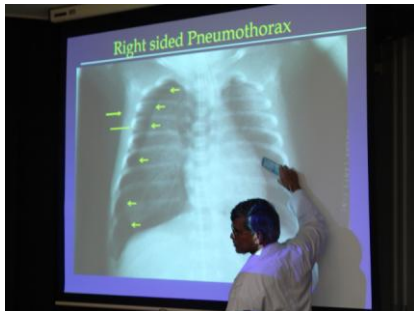


2006年3月9日 EMP 講座第二部 3日目

講義棟 301 教室で、4年生、5年生が分かれて Dr. Waffarn の参加型の講義に参加しました。4年生がやっているときは5年生にゲストさんが **Preview** を、午後から4年生にホワイトさんが **Review** を行ないました。県立看護大の見学者も加わりました。以下は、学生からの感想です。

「本日3月9日、5年生は9時から10時30分まで、ゲスト先生による昨日の **review** と今日の **preview** を行いました。**review** では、昨日の事で気づいた点を指摘してもらいました。昨日

の昼食後のあいさつの際、新生児室で行った議論や実習の事を英語で何と表現したらよいかわからず、変だとはわかりつつ、「lecture」と表現してしまいましたが、「discussion and performance」またはまとめて「instruction」などと表現すればよいと教わりました。また、その日の感想を述べる際の



「I had thought . . . , but I have learned . . . 」(. . . だと思っていたけれど . . . だということを読んだ)などの表現も We have learned. (学びました。) preview も昨日同様、10時30分からの「Instruction」で役立ちました。

10時30分からは、ファイザル先生による新生児呼吸窮迫に関する講座が行われました。スライドの1枚目の「今日の目的」という項で、「describe」「discuss」という単語が太字

の大文字で書かれていたことからわかるように、医学的事項もさることながら、英語によるコミュニケーションに力が注がれていました。私の印象では、先々週のティーラ先生の講座は、医学と英語の比が8:2くらいであったのに対し、ファイザル先生の講座は、それが3:7くらいでしょうか。私個人としては、先々週の肝臓はどちらかというと得意分野で、今週の新児は苦手分野なので、それぞれの先生の方法が私の現状にぴったりあっていて幸運でした。具体的内容としては、新生児呼吸窮迫でみられる徴候、それに関する徴候、それらの徴候の出現時期や経過、X線写真の見方の基礎でした。私個人としては、X線を見るときには骨濃度、水濃度、空気濃度に分けて考え、肺は水濃度と空気濃度の混合である、という当然すぎて普段意識していなかったことを言葉にしてもらったので、目から鱗がおちたような感じがして、今後X線写真を読むのが楽しみになりました。

夜は産婦人科主催の私的な歓迎会が予定されており、学生も声をかけていただきました。5年生4年生それぞれ3人ずつ参加予定です。(M5 杉田)

「Dr. F. Waffarn のレクチャー2日目。午前9時から講義棟教室にて Respiratory Distress のレクチャーを受けました。Dialog を重視したとてもわかりやすい授業でした。

ところどころ Summary をいれ、一つ一つ丁寧にわかるまで何度でも説明して下さったのでとてもわかりやすかったと思います。少人数なのもよかったことの一つです。普段の授業ではこうも行かないのでとても新鮮でした。

明日で Dr. のレクチャーは最後ですが、後につながるようにはっきりうけたいと思います。(M4 山下)

2006年3月10日 EMP 講座第二部4日目

昨日に引き続き、同じ形式で参加型の講義が行われ、産婦人科の池ノ上教授も参加されました。今日も、県立看護大から2名が見学に来られました。以下は、学生からの感想です。Dr. Waffarn の最後の講義で、明日の Review で、第一回の EMP 講座は終わりです。



「今日は9時から10時半までゲスト先生による昨日の review と今日の preview を行いました。review では、ある状態を表現するのに受動態が有用であることや、自分の意見を述べると

きの表現の仕方やファイザル先生が前日に用いた言い回しの説明などを習いました。表現の仕方が苦手な僕にとって、ゲスト先生のレッスンはとてもありがたいです。

ファイザル先生の（最後の）授業では、患者さんとの信頼の確立 **engage**、**good listener** となり情報を得ること、**sympathy/empathy** の重要性を学びました。ファイザル先生は、昨日の歓迎会のときに、あしたの朝はグデングデンになっているかもよと冗談でおっしゃっていましたが、まったく元気そのものでした。授業では、症例について一度自分たちで考えた後、ビデオを見て意見を求められるといったスタイルは今までほとんど経験したことがないため、とても新鮮でした。（ビデオ内の英語の聞き取りはかなりの難易度でありましたが。）タイ・ソクラ大学のサコン先生の時も同様でしたが、できるドクターは医学的な知識だけでなく、患者さんに対する接し方や話し方、倫理といったような **humanity** に関することにもとても熱心であると感銘を受けました。ファイザル先生の授業は3日だけでしたが、多くのことを学ばせていただきました。学んだことを今後に関し、より精進していくことで感謝の気持ちを表していこうと思います。（M5 牧）」

「今日で **Dr. F. Waffarn** のレクチャーは終わり。実際アメリカで行われた医学生の実験の映像を見ながらディスカッションをしました。私たちも1月に **OSCE** という同じような試験を受験済みなので理解がしやすかったです。

英語自体が理解できなくても、考えるというのは大切です。時間はかかりますがとても勉強になると思います。英語という壁があるからそっちについつい注目してしまうけど、考えて自分の言葉でかみ砕いて説明することで理解が深まります。先生はそう言うチャンスを沢山与えて下さったと思います。（M4 山下）」

2006年03月11日 EMP 講座第二部5日目

4年生はホワイトさんが、5年生はゲストさんが担当してそれぞれ、レビューをやりました。

- * 担当者、参加者の意見を聞き、今回のEMP講座のフィードバックを行ない、報告書にまとめたいと思います。
- * ケーススタディの様子は前回と同様に録画し、DVD-R 6枚に収めています。今後の資料に加えたいと思います。



別添資料4 実施後評価アンケート

EMP 実施後評価 (学生)

今後の EMP プログラムの改善に役立てますので以下の質問に正直に答えて下さい。

5. あなた自身について

- 1) あなたの英語力はどれくらいですか。(例：TOEIC 500 点、英検 2 級など)
- 2) このプログラムに参加した目的は何ですか。

6. Dr. Teerha/Sakon 担当の EMP セッションについて

- 1) このセッションはあなたにとってどれくらい有益でしたか。5 段階で評価して下さい。
有益でない 0 1 2 3 4 5 とても有益であった
- 2) このセッションで最も有益だった点を思いつくままに書いて下さい。
- 3) このセッションであまり必要ない点を思いつくままに書いて下さい。
- 4) このセッションで改善すべき点を思いつくままに書いて下さい。
- 5) あなた自身について、以下項目の該当する箇所に○印を付けて下さい。

	大変満足	満足	あまり満足していない	満足していない
あなたの目標達成度				
セッションのインプット量				
セッションのインプットレベル				
セッションへの参加度				
資料類(映像を含む)				
期間(3日)の長さ				
使用教室				
設備類				

「あまり満足していない」「満足していない」とした項目についてその理由を書いて下さい。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

7. Dr. Waffarn 担当の EMP セッションについて

1) このセッションはあなたにとってどれくらい有益でしたか。5段階で評価して下さい。

有益でない 0 1 2 3 4 5 とても有益であった

2) このセッションで最も有益だった点を思いつくままに書いて下さい。

3) このセッションであまり必要ない点を思いつくままに書いて下さい。

4) このセッションで改善すべき点を思いつくままに書いて下さい。

5) 以下の項目についてあなた自身について該当する箇所に○印を付けて下さい。

	大変満足	満足	あまり満足していない	満足していない
あなたの目標達成度				
セッションのインプット量				
セッションのインプットレベル				
セッションへの参加度				
資料類(映像を含む)				
期間(3日)の長さ				
使用教室				
設備類				

「あまり満足していない」「満足していない」とした項目についてその理由を書いて下さい。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

8. ゲストさん、ホワイトさんの follow-up セッションについて

1) このセッションはあなたにとってどれくらい有益でしたか。5段階で評価して下さい。

有益でない 0 1 2 3 4 5 とても有益であった

2) このセッションで最も有益だった点を思いつくままに書いて下さい。

3) このセッションであまり必要ない点を思いつくままに書いて下さい。

4) このセッションで改善すべき点を思いつくままに書いて下さい。

5) 以下の項目についてあなた自身について該当する箇所に○印を付けて下さい。

	大変満足	満足	あまり満足していない	満足していない
あなたの目標達成度				
セッションのインプット量				
セッションのインプットレベル				
セッションへの参加度				
資料類(映像を含む)				
期間の長さ				
使用教室				
設備類				

「あまり満足していない」「満足していない」とした項目についてその理由を書いて下さい。

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

9. 全体的な観点から

1) このプログラム全体を通して5段階で評価して下さい。

有益でない 0 1 2 3 4 5 とても有益であった

2) プログラム全体を通して最も良かったセッション／内容は何でしたか。

3) プログラム全体を通して満足のいかなかったセッション／内容は何でしたか。

4) プログラムの実施期間についてどう思いますか。

長い ちょうど良い 短い

5) このプログラムは年何回実施するのが適当だと思いますか。

1回 2回 3回

6) このプログラムで改善すべき点を思いつくまま書いて下さい。

7) このプログラムで得られた成果は何ですか。

8) その他気づいたことがあれば何でも結構ですので書いて下さい。

ご協力に感謝します (よこ)

差し支えがなければ氏名を書いてください。

別添資料5 参加者感想文 (英文)

趙麻美 CHO Ami (5th year)

EMP have begun in the middle of the March. It has stimulated me very much, and I got a lot out of it.

Firstly, we got instruction with Dr. Sakon and Dr. Teehra. In April, we are going to stay in Thailand. So, it is a very useful for me to get accustomed to English spoken in Thailand. And Dr. Teerha taught us concretely how to treat the patients based on EBM.

Secondly, the instruction was given by Dr. Waffarn from UCI. Thanks to preview and review by English teacher especially Mike, I could understand the instruction more deeply. And I could have an opportunity to learn how to express my feeling and opinion with correct adjective and verb in English. In the third session, I have thought that there are little differences between US and Japan how to engage between doctor and patient, though there are great differences in medical system, for example medical insurance

Thanks to EMP, I have come to feel that I would like to learn English more and more. In Thailand, I want to have active and pleasant communication with other people in English.

Finally, thanks to all for giving me the opportunity of joining the EMP.

杉田泰雅 SUGITA Yasumasa (5th year)

A new trial —EMP (English for Medical Purposes)— started this spring. It is what I have longed for. I want to go through medical training in U.S.A. and then work in the areas of developing countries where there are few doctors. So it is indispensable for me to progress my ability to communicate with people in English. But it is not easy to practice English conversation in Japan. I thought I could practice English conversation if I did clinical clerkship in Thailand. Unfortunately I failed in the draw for it. I was at a loss what to do in order to progress the ability of my English conversation. Then I remembered the new project would start this spring. I thought it would give me a foothold in the advancement in my English.

On February 20, 21, and 22, Dr. Teerha and Dr. Sakon from Prince of Songkla University in Thailand instructed us. We discussed jaundice and gastrointestinal bleeding in Dr. Teerha's class. Because I was good at this field, I was very excited to discuss and I thought I was able to communicate in English relatively well in the two classes. And the discussion that Dr. Teerha and doctors in the Internal medicine division 2 had in the university hospital on the afternoon of Feb.20 was also informative to me. On the other hand, Dr. Sakon' class — the topic was medical ethics — was comparatively difficult for me because I didn't know several technical terms. And generally speaking, it is hard to manifest our own opinions about ethical things even in mother tongue, to say nothing of foreign language. But the class was very stimulating to me because the relationship between doctors and patients is one of the most important things in medical service and he gave me the opportunity to think about such important things in English.

On March 8, 9, and 10, Dr. Waffarn from University of California instructed us. On the first day we discussed the status of a neonatus and then he performed assessment for the baby in the NICU. He was very powerful, so I was overwhelmed and I couldn't do anything well. After lunch, I took part in the discussion Dr. Waffarn and the doctors in the O.B. division had. On the second day's class, the topic was "differential diagnosis of respiratory distress in the newborn infant". On the third day, we discussed a case of abdominal pain of a pregnant woman, and then he showed us a video on which a U.S. medical student took a history from her and performed a physical examination. I could catch only 10-20% of what they said on the video, so I was embarrassed when he told me to express my opinion. He was putting an emphasis on giving us the

opportunity to manifest our opinions in English more than giving us medical knowledge. It was good for me. Though these three days were very hard, they motivated me to carry on practicing English very hard. And those previews and reviews which Mr. Guest did make it not too difficult for me to follow Dr. Waffarn and were very helpful.

On this occasion, I had many good experiences. For example, I went sightseeing with Dr. Teerha and Dr. Sakon and talked about many topics other than medicine, I drank with Dr. Waffarn and asked him about the student life of U.S. medical students, I talked with Mr. Tamada about EMP very much, I expressed to Dr. Ikenoue my opinion about EMP, and I had exchanges with Thai students who were studying in our hospital for three weeks at the about same period when EMP was performed.

I thank all parties concerned with EMP for providing such a great opportunity for us. I hope that EMP will continue and develop more and more.

Impression of the EMP

塚原朋子 TSUKAHARA Tomoko (5th year)

Through the EMP, I got a lot of things. When Thai doctors came to our class, I felt nervous, so I could hardly catch what doctors said and could hardly make myself understood. However the latter part of the EMP gave me confidence and courage. Especially the instructions of previews and reviews given by Mike Guest were really fruitful for me. Having Dr. Waffarn's instructions beforehand were very helpful so I could understand clearer what he said. And when I was speaking English, I always noticed using words properly was very difficult even if a simple word. Transforming a noun into an adjective, a verb into a noun, and so on immediately in Mike's class was hard but was very useful to make myself understood more accurately to the others. Mike chose the words in relation to Dr. Waffarn's instructions, so I could choose the more proper words than before. Besides practicing, having to reply quickly gave me confidence and powers of concentration on listening. I had also learned most important thing was to manage to convey my own opinions to the others. Without speaking and telling one's opinions, we can never communicate with each other, therefore hesitation or embarrassment is not helpful and having the courage to be scared of nothing is important. Through the EMP, many people helped and supported us, so I appreciate all of you.

牧洋平 MAKI Yohei (5th year)

At first 1 week, I had lessons by Dr. Sakong and Dr. Teerha who came from Songkla University in Thailand.

Dr. Teerha's lesson was about upper gastrointestinal bleeding, especially esophageal varix due to portal hypertension. I think he had planed to have us discuss with each other, and he just moderated directions. Because Thai students told me it was the way of Thai medical education, but we Japanese students had never had like that and did not have enough English vocabulary for discussion, so he asked us some questions and we answered. I was surprised his knowleges about statistical data concerning the diseases. He knew even detailed figures.

Dr. Sakon taught us about medical ethics, how to communicate with patients although he is a surgeon. It was very new for me, because I have rarely had lesson about ethics. Ethical words were difficult for me, but he tried to explain in easier words, so I could understand what he wanted to tell us. This was a second time he came to Japan, but he also knows so much about Japanese culture, such as kappa, tatami, Musashi, and so on. He told me he had read so many books about Japanese culture.

I had lessons from Dr. Feizal Waffarn from University of California, Irvine in the next week. Actually, I want to be a pediatrician. And especially I am interested in neonatology. He is a

pediatrician, and he taught us neonatal respiratory distress how to evaluate gestational age by means of using New Ballard Score, the they were really impressive and useful for me. Actually, in first day, I was nervous and overwhelmed due to his special mood, but I got used to him gradually. He wanted us not to hesitate to speak in English, not to be scared to make mistakes, and he said trying to express in English is important. I think it was quite right.

Reviews and previews by Mike were really helpful for me. He knows what Japanese students were poor at, what is useful for them. His advices were to the point. I think his help is needed for success in this program. For the whole EMP program, I got a lot out of it including medical things and talking in English. It could help me to study not only the course at Prince of Songkla University but also through my career.

I appreciate those who gave me the chance to participate in EMP.

My impression on EMP

須江宣俊 SUE Nobutaka (5th year)

I studied English in earnest after 5 years absence, therefore, my last study English earnestly was 5 years ago for the college entrance examination. Of course I had English class as liberal arts, but then I was not in need of skills of English conversation, so it is regrettable for me I did not make the most of the class. This EMP lesson was valuable on the point of being accustomed to speaking and listening English as well as communication with exchange students from Thailand. I can do English reading to a certain degree, but other factors for English communication, especially speaking, are not good. I guess many Japanese people including me should learned English grammar and words, however when the opportunities to speaking English comes, we will come to be hesitate about speaking. Getting through this EMP class, my English did not develop remarkably but I could get some prompts and courage for speaking English, and elevate the will to brush up my skills. Thank you very much for giving me this chance.

齋藤清貴 SAITO Kiyotaka (5th year)

The main thing that the EMP impressed upon me was the necessity of using English is for international exchange. We have studied English since we were in junior high, but it was treated as just another subject rather than a means of communication. We could only speak a few words poorly and we were not able to express our thoughts. I felt this strongly during the stay of my Thai friends. I felt that it is very important to be able to tell someone what we are thinking.

Also, I'm very sorry that I could not attend the latter part of the EMP lectures.

三輪真史 MIWA Masashi (4th year)

I had a great and wonderful experience in this program. Normally it is rare for us in Japan to listen to medical lectures by foreign doctors in English. Thanks to this program we could study medicine in English without having to go abroad. I think this was a very good experience for those of us interested in studying and working in foreign countries.

Through this program, I learned several things. One thing that I learned is that we should speak confidently without being afraid of making mistakes. We are not required to speak English perfectly. I think it is important to make ourselves understood, but we should not worry too much about mistakes. We should not hesitate when we speak or ask questions.

I also realized the importance of medical knowledge. If we know and understand the material well, we can ask and answer questions confidently. This was not simply an English lesson, our purpose was to study medicine in English. So, for us, English is just a tool for studying. Each doctor in this program was great, and we studied and learned about several new things which have not yet been covered in lectures at our university. All the doctors were very kind to us

during the lectures, and they always asked us many questions. I am not sure how they teach in their own schools, and how many students are in their classes, but they repeatedly asked us questions to us many times to make sure we were following. Because there are many students in our regular classes, it is difficult to compare. The lectures in this program were excellent and had a good atmosphere.

Dr. Sakon from Thailand focused on ethical issues surrounding the care of illegal immigrants. Although this situation is somewhat rare in Japan, it showed me the importance of studying ethics. Dr. Sakon's lecture also showed me that, if we are interested in studying and working abroad, we need to learn some basic background information regarding medical and health insurance systems in foreign countries.

In Dr. Teerha's lecture, we learned about the differential diagnosis of hepatitis. We studied that topic last year, but Dr. Teerha's style made the lecture enjoyable. Most of the lectures we took last year were explanations of diseases and syndromes. But in this lecture, we learned the subject in steps; taking history, laboratory analysis, and differential diagnosis. We learned a lot of new medical information during this lecture.

I also attended the first clinical lecture by Prof. Waffarn. We won't begin learning 'bedside' medicine until next month, so Prof. Waffarn's lecture was very exciting, because it was a demonstration of the New Ballard Score tests on an actual newborn baby. He also gave a lecture on symptoms of newborn respiratory disease. We didn't study much about this last year, but his explanation was clear. He focused on several main points and repeatedly questioned us to see if we understood. At first we found his questions difficult, but once we understood his purpose, the lecture went smoothly. Prof. Waffarn was kind to us and is an excellent doctor.

Every lecture was exciting and stimulating for me. I really enjoyed them and learned not only English medical terms but also some new medical information. I learned many things in this program.

I really appreciate the excellent lectures that the doctors gave, and I also appreciate the efforts of the University of Miyazaki's staff who prepared and arranged this program.

竹淵史子 TAKEBUCHI Fumiko (4th year)

This spring I had the opportunity to participate in the EMP program. The biggest lesson I learned from this program was the importance of becoming accustomed to speaking in English. In every lesson I was frustrated several times because, for example, I wanted to answer a question but it took, I felt, too long for me to find the English words I wanted to say. I believe this happened because I'm not used to speaking in English. While I was struggling to find the right words, I lost my chance to speak. This was regrettable, but it has given me much motivation.

Doctors Waffarn, Sakon and Teerha were kindly enough to repeat what they were saying, and to use different phrases to express their meaning. All sessions were well prepared and very useful. I really appreciate the efforts of everyone who was involved in this project.

田中千尋 TANAKA Chihiro (4th year)

The EMP program was very enjoyable and stimulating. Prior to EMP I felt uneasy about my English conversation ability because I had gotten away from studying English. Through the EMP program, however, I had an opportunity to speak English, and I learned not that there is nothing wrong with making mistakes, and that it's even necessary to make mistakes in order to improve my English speaking skills.

I think that learning medical English will give me more opportunities in life, but because there are so many technical terms to learn I can't do it on my own. The EMP program presented

medical terms in English in a way that made it easier to learn and remember them.

I really appreciate being given the opportunity to participate in this program. I would like to express my gratitude to Dr. Waffarn, and to Messrs. Tamada, Yokoyama, White and Guest. Thank you all very much

馬越裕子 UMAKOSHI Yuko (4th year)

The EMP lesson was very useful and stimulating.

In the first lesson I realized that there are many medical terms I am unfamiliar with in English. I also realized that my English ability is inadequate to properly express myself. Although I was interested in what the teachers was saying I was not able to understand very much. I was afraid to speak for fear of making a mistake. By the end of two weeks, however, my fear went away. I could speak a little and could understand the teachers.

English study at this university ends after the second year, so we have few opportunities to speak English unless we actively seek them. I'm a little sorry that I haven't taken it upon myself to study more English these past two years because the EMP program showed me how much progress is possible in just two weeks! I decided to participate in EMP in order to go to Thailand or the USA next year, but I will have no regret if I am not chosen to go. I want to express my deepest thanks to the teachers who participated in the EMP program. I think that I will continue to speak English with friends.

山下麻里絵 YAMASHITA Marie (4th year)

I believe that the EMP program was a great success. I have three reasons for saying so.

The first reason is "opportunity." Since we had finished our English class in the 2nd year, we really haven't had any chances to speak English, especially regarding medicine. During this program, we studied in English, thought in English and I'm sure that helped us a lot.

The second reason is "expression." In speaking English or studying medicine in English, the most important things for me are natural expressions. I think it is common among Japanese. We know the terms, and we know the pronunciation but we can't absorb the real expressions English speakers use unless we have conversation with them.

The last reason is "being motivated." The lessons of this program were very stimulating. I used to think of studying medicine abroad, but had forgotten and became demoralized because I had a lot to do. Through this program, I have been re-motivated and I want to try harder again now. I hope this program will continue next year and that the two schools will establish a good relationship.

竹田奈穂子 TAKEDA Nahoko (4th year)

The EMP program was a valuable experience for me. Three foreign doctors came to this university – Doctors Sakon and Teerha from Prince of Songkla University, and Dr. Waffarn from the University of California, Irvine.

At the beginning of the program I had a hard time keeping up with the English. I was not used to listening to English, so I could not understand the doctors. After the first two days I was beginning to regret my decision to participate in the program, and I felt stress because of it. As time passed, however, I found my listening improving and I was able to enjoy the lectures. The doctors' use of visuals (such as Power Point) was very useful and made it much easier for me to understand and follow the classes.

Dr. Waffarn's lectures and discussions made an especially big impression on me. He taught us about the New Ballard Score (NBS), a test used to determine the age of neo-natals. We actually

performed this test on a new-born and our results agreed with the baby's actual age. I was impressed by the accuracy of NBS. I had never experienced such a 'hands on' class, so it was very exiting.

During the various welcome parties we had many opportunities to speak with the foreign doctors and students outside of the classroom environment. I did my best to speak with the students from Songkla University. I found it difficult to express myself in English. I learned, however, that I shouldn't be too worried about making mistakes. The important thing is to say what's on my mind. From now on I want to try harder to study English.

資料6 横山彰三「ソンクラ大視察」

医学科社会医学講座英語分野助教授 横山彰三

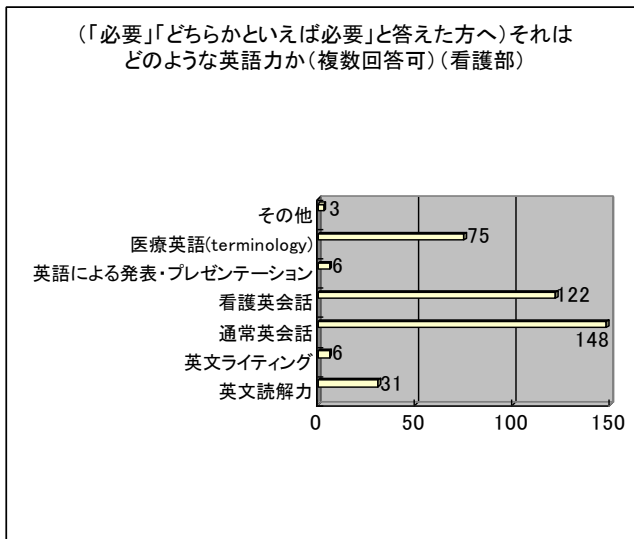
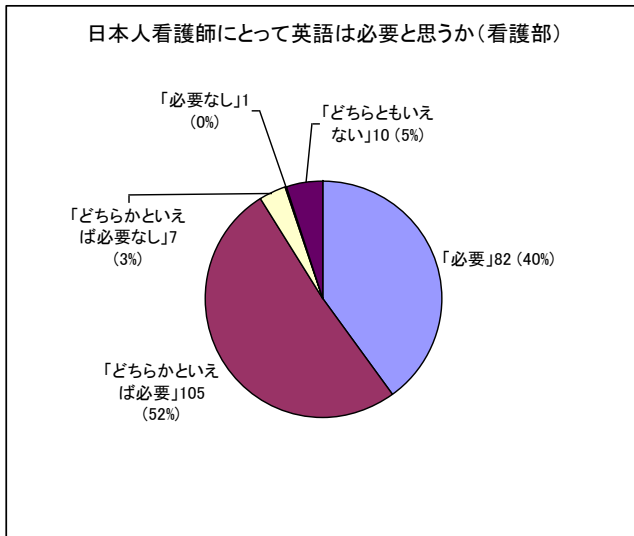
2006年12月11日から14日まで、科学研究費補助金による調査でタイのプリンスオブソンクラ大学(PSU) 医学部を訪問し、現地では大変な歓迎を受けました。訪問の主な目的は専門英語(医学)の教育に関する科研の調査を実施することと、もう一つは今年から本学医学部で始まるEMP(English for Medical Purposes)プログラム実施に向けた両大学医学部の緊密な協力関係を築くためです。PSUではレジデントの1年生に必修、2年生に選択の英語教育を課しており、PSU医学部の副学部長によればこのシステムはタイでも他に類を見ないユニークなものです。クラスの一つを実際に見学する機会を得ましたが、レジデントたちは臨床研修で大変忙しいにもかかわらず、英語学習に大変熱心でかつそれを楽しんでいる様子でした。この光景を見て、今後我々が計画しているEMPプログラムにとって成功の鍵を握るのは、明確な目的と適切なシステムに基づいた言語学習プログラムと教師の熱意であることを確信しました。

From December 11th to 14th in 2005 I visited Prince of Songkla University's (PSU), Faculty of Medicine subsidized by a Grant-in-Aid for Scientific Research. The PSU staff gave us a warm welcome. The main objective of this visit was to carry out research on medical English education at PUS in reference to my own corpus project for creating an academic reading and writing educational system, and also to build a close collaborative relationship in order to implement an English for Medical Purpose (EMP) program to be conducted at University of Miyazaki (UOM). PSU provides an obligatory English program to the first-year residents, which is optional for the second-year residents. This is, according to the Vice Dean of Prince Songkhla University, a unique approach among universities in Thailand. We had a chance to join in one of the classes, and it seemed that, although they were tied up in their clinical training, the students were very enthusiastic and enjoying themselves, which convinced us that a language program with a clear objective, a suitable system, and enthusiastic instructors will be the keys to the success of our new EMP program at UOM.

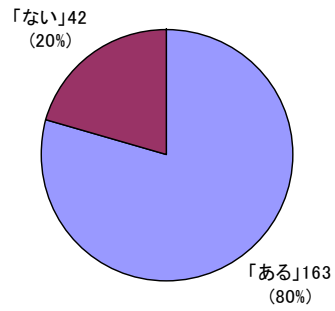
YOKOYAMA Shozo



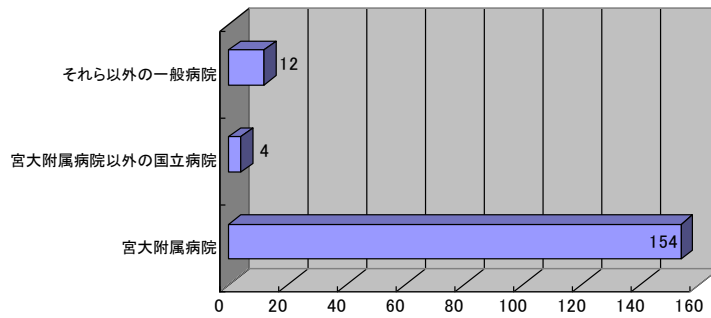
資料7 看護部アンケート



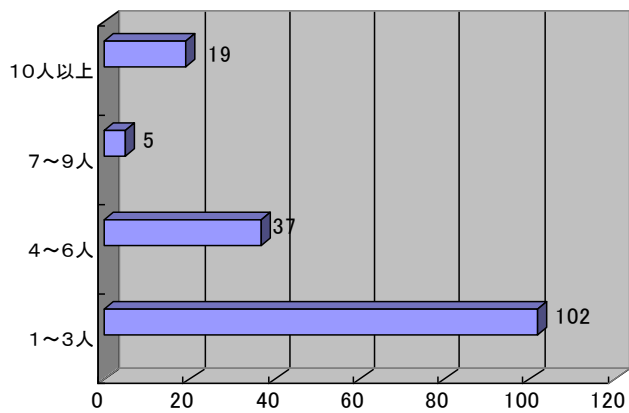
これまでに外国人患者の看護(ケア)を経験したことがあるか(看護部)



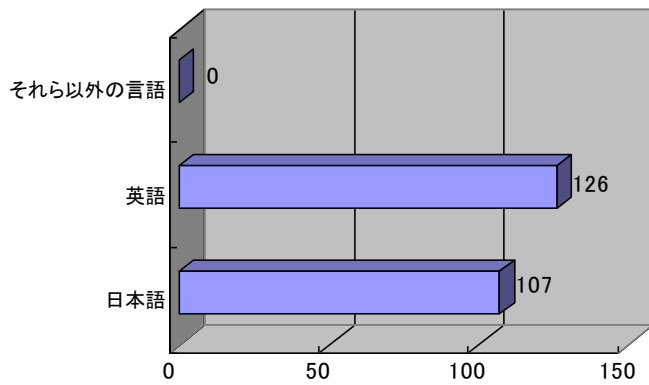
(「ある」と答えた方へ)それはどこで経験したか(看護部)



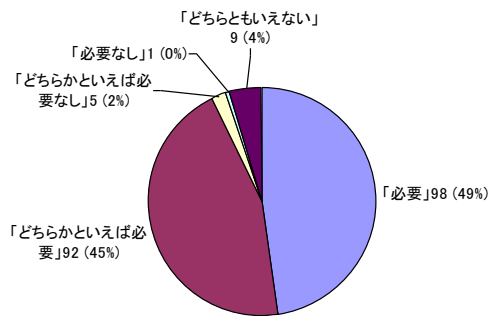
(「ある」と答えた方へ)それはこれまでに何人くらいか(看護部)



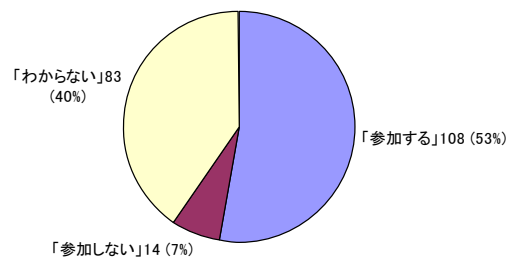
(「ある」と答えた方へ)その際、使用言語は何だったか
(看護部)



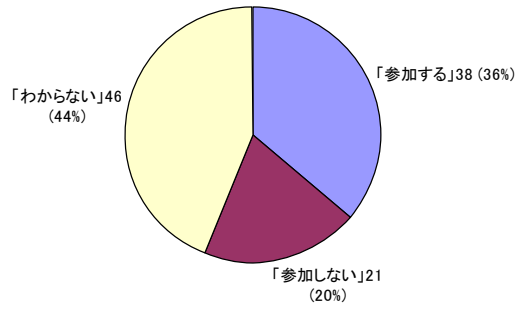
看護師として英語コミュニケーション能力(聞く・話す)は必要だと思うか(看護部)



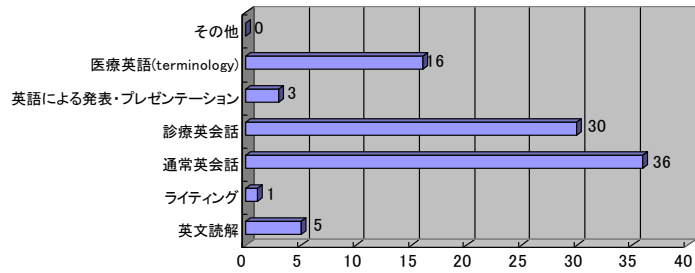
現職看護師対象の英語教育プログラムが学内で提供されるなら参加するか
(看護部)



(「参加する」と答えた方へ)プログラムが有料でも参加するか(看護部)



(「参加する」と答えた方へ)どのような内容を希望するか(複数回答可)(看護部)



竹田奈穂子 TAKEDA Nahoko (4th year)

The EMP program was a valuable experience for me. Three foreign doctors came to this university –Doctors Sakon and Teerha from Prince of Songkla University, and Dr. Waffarn from the University of California, Irvine.

At the beginning of the program I had a hard time keeping up with the English. I was not used to listening to English, so I could not understand the doctors. After the first two days I was beginning to regret my decision to participate in the program, and I felt stress because of it. As time passed, however, I found my listening improving and I was able to enjoy the lectures. The doctors' use of visuals (such as Power Point) was very useful and made it much easier for me to understand and follow the classes.

Dr. Waffarn's lectures and discussions made an especially big impression on me. He taught us about the New Ballard Score (NBS), a test used to determine the age of neo-natals. We actually performed this test on a new-born and our results agreed with the baby's actual age. I was impressed by the accuracy of NBS. I had never experienced such a ' hands on ' class, so it was very exiting.

During the various welcome parties we had many opportunities to speak with the foreign doctors and students outside of the classroom environment. I did my best to speak with the students from Songkla University. I found it difficult to express myself in English. I learned, however, that I shouldn't be too worried about making mistakes. The important thing is to say what's on my mind. From now on I want to try harder to study English.

島元万吏 SHIMAMOTO Mari (4th year)

戸田翠 TODA Midori (4th year)